

トルコギキョウ年内出し栽培のボリューム向上技術

農業研究センター 農産園芸研究所 花き部

研究のねらい

10月から12月に採花する作型では、8月の高温期に定植しなければならないため、3月から5月採花と比べて切り花ボリュームが極端に小さく、対策技術の確立が望まれている。そこで、切り花ボリュームの向上技術について検討した。

研究の成果

1 定植前の圃場の管理

定植の3週間ぐらい前から、遮光率80%程度の寒冷紗でハウスを覆い、地温の上昇を抑える。基肥を施す前に地中深くまで充分湿らせる。

2 水管理と反射マルチ

定植直後から1ヶ月間は、自動間断灌水で常に湿った状態を作り出す。保湿と地温上昇抑制のため、アルミ蒸着の反射マルチを設置すると良い。

3 基肥と追肥

基肥は、速効性と緩効性半々ぐらいの水平型肥料を用い、窒素成分で1アールあたり、1.5kgから2.5kg施す。追肥は定植直後から発蕾まで液肥で週1、2回行う。

普及上の留意点

10月から11月採花では、中晩生品種を8月上旬に定植するとボリュームが取れやすい。12月採花では、早生品種を8月下旬から9月5日までに定植すると良い。

この作型では、ボリュームが取れる品種と取れない品種がはっきりしているので品種の選定には、十分な注意が必要である。早生品種は、あずまの粧やあずまの波等が、中晩生品種は、あすかの粧、あすかの桜、あすかの雪、つくしの春やつくしの波等が適している。

10月中旬以降は夜温が低くなるので14℃程度に加温する。10月～11月採花では、昼間の換気を充分に行う。12月採花では、9月上旬から、昼温を30℃以上に管理して蒸し込む。

表 1 年内出し栽培試験区の構成

試験区	定植前の寒冷紗の有無	反射マルチの有無と種類	灌水方法
①	有(3週間)	アルミ蒸着フィルム	自動間断
②	有(3週間)	ポリエチレン長繊維不織布	自動間断
③	有(3週間)	無	自動間断
④	無	無	手灌水

注) 自動間断灌水は、午前6時から午後6時まで1時間に1回約8分の灌水を37日間行った。その後は灌水量を次第に減じ、第1花開花時点で水を切った。

表 2 年内出し栽培試験区における供試品種の切り花品質

品種名	試験区	平均採花日	草丈 (cm)	茎長 (cm)	節数	茎径 (mm)	切り花重 (g)	輪数
あずまの粧	①	10/17	66.7	24.8	9.6	4.26	42.1	5.9
	②	10/20	64.8	24.9	9.8	4.22	36.6	5.5
	③	10/26	60.7	25.6	10.2	4.04	32.2	4.8
	④	10/13	57.6	24.5	9.1	3.06	19.7	3.8
つくしの霧	①	10/23	99.4	54.3	11.6	5.42	62.6	6.0
	②	10/28	98.7	54.8	11.5	5.33	56.4	5.1
	③	11/2	94.2	51.2	11.9	5.23	54.1	5.0
	④	10/25	71.6	43.3	10.5	3.93	25.9	3.2

注) 6月9日に播種し、8月2日定植した。節数はロゼット節を含み、指数はつぼみの長さが2cm以上のものを含む。

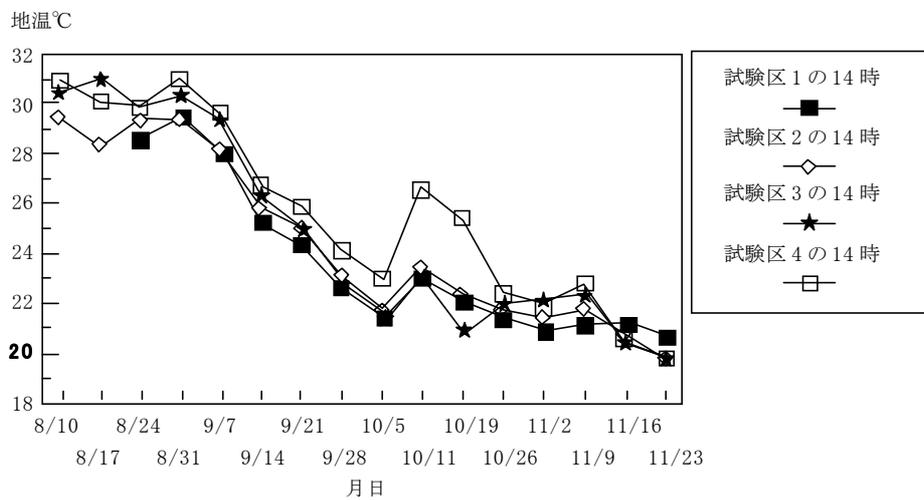


図 1 各試験区の地温の推移